



平成27年3月23日

国土交通省中部地方整備局

名古屋港湾事務所

## 「第3回自動車産業と港の連携のあり方に関する検討会」

～ 名古屋港の今後の方向性についてとりまとめ ～

多くの課題が山積する名古屋港の更なる発展と物流サービスの向上を目指し、日本経済を牽引する自動車産業と港の連携のあり方について検討するため、平成27年3月12日（木）に自動車メーカー、船社、港運、経済団体、行政機関をメンバーとする「第3回自動車産業と港の連携のあり方に関する検討会」（座長：名古屋港湾事務所長 永井一浩）を、名古屋市内にて開催した。

第1回検討会（H26.9.4開催）、第2回検討会（H27.1.23開催）の議論を踏まえ、「自動車産業と港の連携のあり方に関する今後の方向性」（別紙1参照）をとりまとめた。

本検討会は平成26年9月に立ち上げられ、およそ1年間にわたり課題の抽出とその解決方法についての議論を行ってきた。その結果、自動車産業と港の連携のあり方に関して、一定の方向性を打ち出すことが出来たと考えている。

名古屋港の今後のあり方の多くは、多様な関係者間の調整・連携を必要とするものであり、今後は、本検討会を契機とし、これまで以上に関係者が積極的に連携を図り、名古屋港の目指すべき方向性を継続的に議論していくとともに、着実かつ迅速に施策の実施に向けて取り組んでいくことが望まれている。

今後は、明らかになった課題に対し、本検討会で培った連携を活用しつつ、名古屋港をより良い港湾にするための検討を継続的に行っていく。

### 第3回 検討会の主な議事

- 金城ふ頭の再編・自動車取扱機能の強化ということについては、何度も要望に上がっており、ようやく前進する動きが見えてきたことは非常にうれしい。着実に進めていただけるようお願いしたい。
- 交流拠点と物流拠点を明確に分けて、将来的に物流拠点を集約化することは、利用者として歓迎する。
- 名古屋港を利用しているメーカーとして、こういった場で今後の整備構想等を知れるメリットは大きく、自社の今後の計画等にも活かしていきたい。今後も継続してこういった情報交換の場所があればありがたい。
- コンテナの集中管理ゲートの取組は素晴らしく、完成自動車輸送においてもこういった革新的な機能が導入されることを期待している。



- 将来像を描く際、「いつまでに何を」という具体的なスケジュールを想定すべき。
- 自動車産業を支えるためにはコンテナ物流も非常に大事。そういった意味でも飛島ふ頭の2本の道路橋の機能を維持、強化することが重要。
- 良い物流を実現するためには、リードタイムを短縮することが生命線である。渋滞による時間損失はボトルネック。
- 大規模災害時、名古屋港が機能を回復するのにどれくらいの時間を要するのか。また、各種情報をどういう機関に、どういう方法で確認すれば良いのかを皆で共有することで、企業のBCP策定においてもフィードバックが可能である。

## 「自動車産業と港の連携のあり方に関する今後の方向性」の概要

自動車産業を支える港としての名古屋港の課題	自動車産業と港の連携の今後の方向性
完成自動車の輸送ハブの実現に対する課題	
自動車運搬船の大型化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金城ふ頭における大水深岸壁の整備及び完成自動車取扱機能の集約</li> <li>● 埋立てによる老朽化施設の廃止と用地の確保</li> <li>● 物流機能と交流機能が混在する金城ふ頭の交通動線分離</li> </ul>
機能の混在によって生じる各種の問題への対応	
モータープールの運営効率化に向けた対応	
施設の老朽化への対応	
海上交通の効率化に向けた対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● より効率的な航路体系のあり方についての検討</li> </ul>
効率的なコンテナ貨物取扱拠点の実現に対する課題	
コンテナ船の大型化への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● コンテナターミナルの機能強化</li> </ul>
コンテナターミナル背後の交通混雑への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふ頭間道路などの陸上交通ネットワーク強化に向けた検討</li> </ul>
海上交通の効率化に向けた対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 輸送のボトルネック箇所の増深・拡幅</li> <li>● より効率的な航路体系のあり方についての検討（再掲）</li> </ul>
コンテナ貨物取扱のインバランスへの対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インバランスの解消方策の検討</li> </ul>
大規模災害時の貨物輸送機能の維持に対する課題	
大規模災害時の施設の機能維持に向けた対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金城ふ頭における耐震強化岸壁の整備</li> <li>● 減災対策の推進</li> </ul>
リダンダンシーの確保に向けた対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふ頭間道路等陸上交通のリダンダンシー確保に向けた検討</li> </ul>
発災後の港湾機能の早期回復に向けた対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 港湾BCPの早期策定</li> </ul>

### 検討会構成員

別紙2のとおり



- 配布先 中部地方整備局記者クラブ、専門紙記者会、名古屋港記者クラブ、港湾新聞、港湾空港タイムズ、日本海事新聞、海事プレス

- 問合せ先

国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾事務所 企画調整課 板生

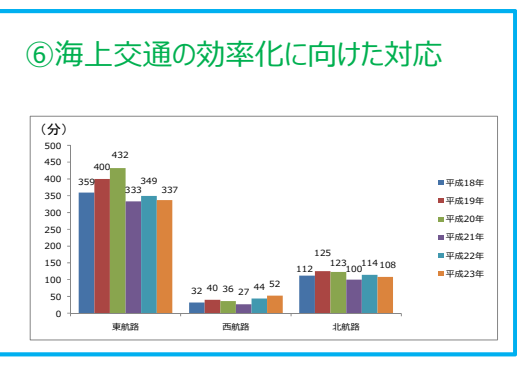
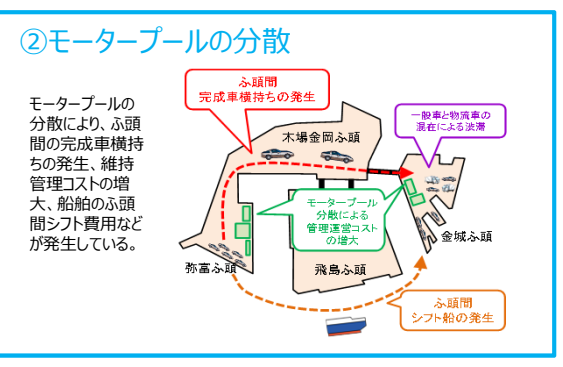
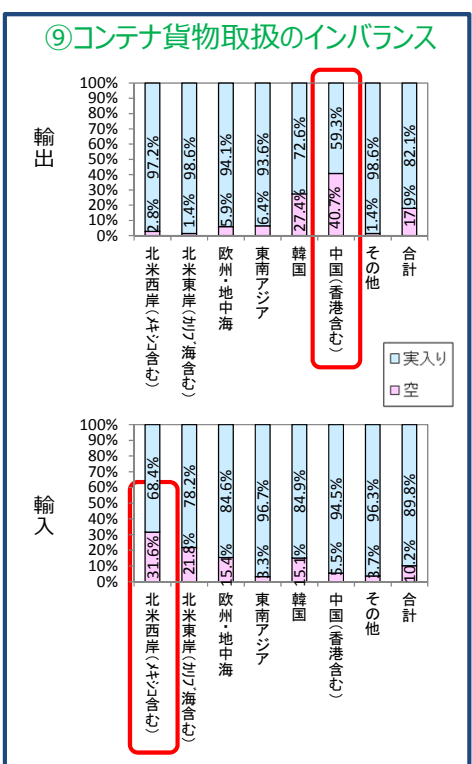
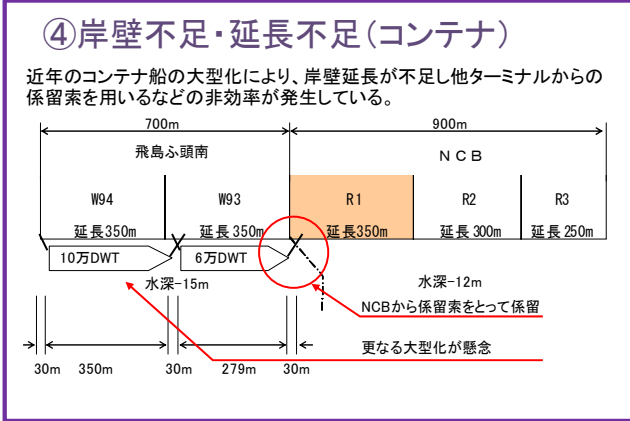
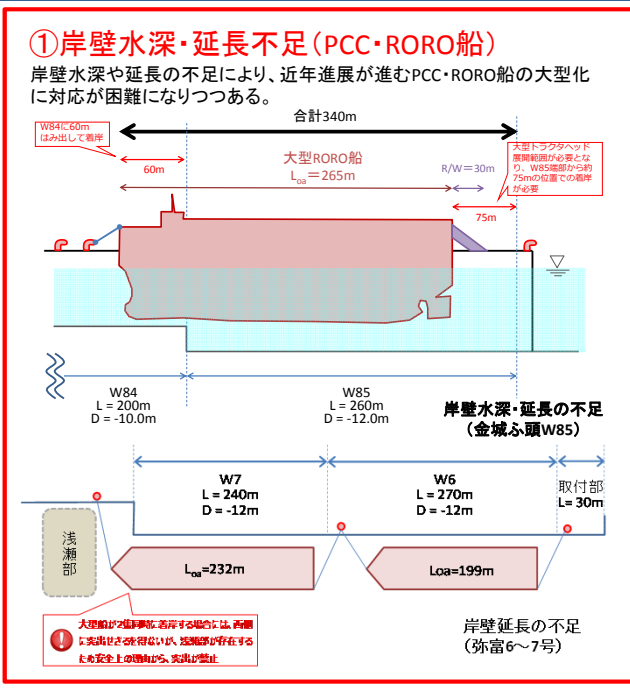
Tel 052-651-6763 Fax 052-652-0303

# 国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism  
検討会の様子





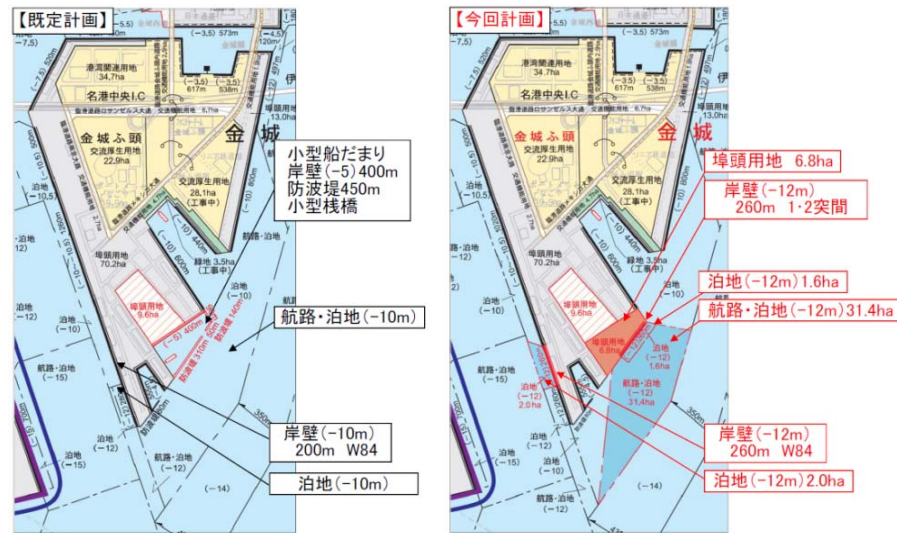




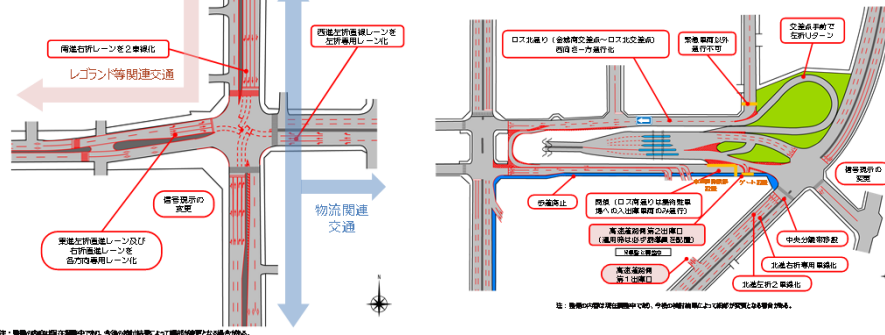


## ①完成自動車取扱機能の更なる強化

金城ふ頭の再編計画



交通分離対策の具体例(交差点改良)



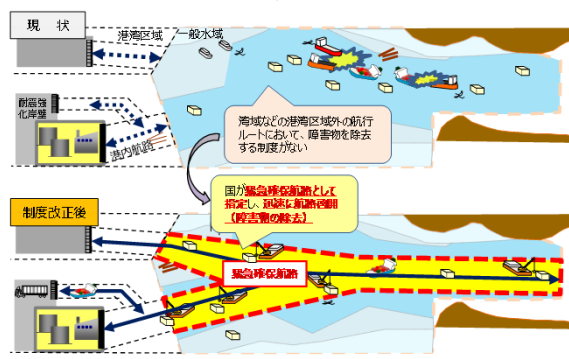
## ②コンテナ貨物輸送の更なる効率化

コンテナ貨物輸送の効率化に資する施設整備の例

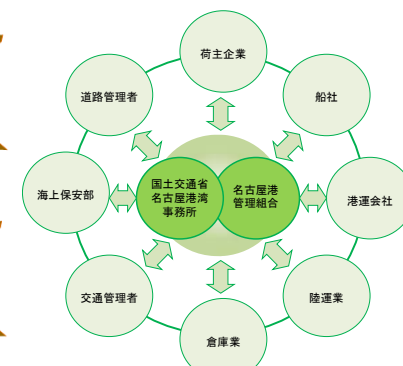


## ③大規模災害時の貨物輸送機能の維持

緊急確保航路の指定



関連主体が連携したBCPの策定



## 「自動車産業と港の連携のあり方に関する検討会」 構成員

(敬称略・順不同)

区分	所属・機関名	構成員
港湾利用者	トヨタ自動車（株）	物流管理部 部長 成瀬 茂広
	三菱自動車工業（株）	物流企画部 部長 伊達 亮
	本田技研工業（株）	鈴鹿製品物流ブロック課長 五十嵐 大輔
	スズキ（株）	海外営業業務部 物流管理課長 大豆生田 守男
	日本郵船（株）	名古屋支店 支店長 小澤 敏也
	（株）商船三井	名古屋支店 支店長 坪井 伸夫
	川崎汽船（株）	名古屋支店長 村尾 圭司
	名港海運（株）	常務取締役 飯田 輝智
	伊勢湾海運（株）	専務取締役 飯谷 達夫
	（株）フジトランス コーポレーション	専務取締役 飯本 務
	トヨフジ海運（株）	取締役 犬飼 雅之
経済団体	名古屋商工会議所	企画振興部 地域・都市整備グループ長 大竹 正芳
	（一社）中部経済連合会	社会基盤部長 秋永 一幸
行政機関	名古屋港管理組合	企画調整室長 錦見 桂司
	中部地方整備局	港湾空港部 計画管理官 早川 佑介
	中部地方整備局	港湾空港部 港湾物流企画室長 柴田 鋼三
	中部地方整備局	名古屋港湾事務所長 永井 一浩
	中部地方整備局	名古屋港湾事務所 企画調整課長 板生 考司